

丸山直文 個展「ラスコーと天気」

「私が見ている風景は、私が見ているように本当にそこに存在しているのだろうか。」

私が今見ているものは、私とその対象との間に存在する湿度、またはその場所の匂い、またはそこで聞こえる音を通して、こちらへやって来ます。それは不安定でまるで半透明なゼリー状のようなものです。

私は私の知覚のあり方について語っているのではないのです。そうではなく、生活の中にある全ての事象について語っているのです。私たちが対象を認識した時、私たちと対象との間に横たわっているものが、どれだけ私たちの認識に関わっているのか、ということです。それは対象を深く理解するということとは違います。また私たちの心の有り様で対象の捉え方が変わるということでも無いのです。そうではなく対象と私たちの間には、私たちにも対象にも依存しない、自立した何かが存在しているのです。

それは常に揺らいでいるので、私たちに不安を与えますが、少しの自由とユーモアをもたらします。

丸山直文